



歌はぬる〜く活動熱く

スーパー銭湯の清潔さ、快適さを守る苦労を広く知ってほしい。こんな思いから、首都圏の温浴施設の代表者、従業員らが「オフロ保安庁」を名乗り、業界を盛り上げる活動をしている。オレンジのTシャツに紺色の帽子。持ち歌もある。見た目はゆるくても、大真面目なのだ。

「長官」を務めるのは、横浜市保土ヶ谷区の温浴施設「満天

の湯」支配人、久下沼伊織さん(37)。「目立たない裏方の従業員に、誇りを持って楽しく働いてほしい」と語る。「格好いいでしょ」。1枚の写真を見せてくれた。保安庁のメンバーが自作のデビュー曲「FUROYA-IKOYA」を歌う場面だ。映像は動画サイト「ユーチューブ」にアップされている。

オフロ保安庁が発足したのは2012年のこと。渋谷区内で開かれたスーパー銭湯の接客サービスを表彰するイベント「おふろ甲子園」で、約15人の初期メンバーがデビューライブを開いた。ステージに立ったのは、分隊の「高湿度設備方面衛生歌唱隊」。ただ、分隊といっても、これ一つだけ。「会場は大爆笑でした」と久下沼さんは振り返る。

結成目的は「オフロの平和を守ること」。当初は、温浴施設の女性従業員でつくるアイドルグループ「OFR48」の男性版



# われら「オフロ保安庁」

## 銭湯のお仕事沸かせます



として歌ったり、OFRの護衛をしたり、コンサートを盛り上げたりする役割だった。デビュー曲は「朝風呂、水風呂、釜風呂、ポディーブロー」などと軽快に歌うが、歌唱力に難があり、すぐにお蔵入りになった。

代わりに、「快適な浴場を維持するのに裏方の仕事は不可欠。楽しく技術向上を図りたい」と、13年から各施設の創意工夫を発表する報告会を始め

①久下沼さんの温浴施設で案内しているボイラー室。入り口には塩化ビニール管で作った鳥居がある。横浜市保土ヶ谷区で②温浴施設を利用する子どもたちの前で歌ったことも(久下沼さん提供)



た。初回のタイトルは「俺たちのバルブ」、2回目は「配管ラブストーリー2」。ちなみに「1」はない。どこまでもゆるく、シャレが利いている。

久下沼さんは「ジワジワ笑いがこみ上げてくるでしょ。でも、内容はすごい真面目」と胸を張る。設備の部品交換法や、パイプ洗浄など衛生管理の工夫を紹介

紹介合うことで、業界全体の技術水準の向上を狙っているという。

現在、メンバーは横浜市、中央区、墨田区、埼玉県春日部市、さいたま市などの20施設の100人ほどに増えた。プロデューサーで、横浜市鶴見区のスーパー銭湯「おふろの国」店長の林和俊さん(42)は「事例発表はネタ切れ気味で、次の展開を考えている」。これまで保安庁は、業界内で知られるにとどまっていたが、最近では「隊員」が自店のボイラー室などを案内する「バックヤードツアー」を開き、一般客の知名度も上げようと挑戦している。

林さんは「銭湯の裏方は地味な仕事。人材も集まりにくい。隊員に楽しく仕事してもらって、ひいては業界全体の魅力を高めたい」と語る。今後、活動をまとめた写真展も開く。

文と写真・志村彰太／紙面構成・佐野貴晴

①2012年のデビューライブで歌う「オフロ保安庁」(久下沼さん提供) ②オフロ保安庁の久下沼伊織長官